

〇5月4日（祝・月） 第2896回例会

神戸愛山協会主催

「第2回・みどりの日を歩こう！」

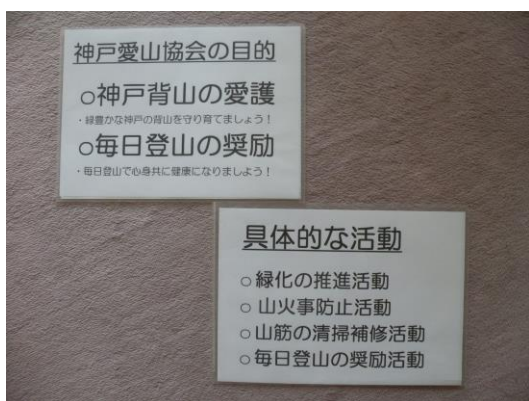
～布引の滝から布引ハーブ園へ～

会 長 吉 野 宏

本年も無事、「みどりの日を歩こう！」の行事を終えることが出来ました。生憎の天候にも拘らず、192名ものご参加を得ましたことに対し、愛山協会会長として心より御礼申し上げますと共に、神戸の背山を愛し、守り、育てられておられる各山筋の登山会、そして、会員の皆様方に改めて敬意を表する次第です。



神戸愛山協会の目的とその具体的な活動についてや、本企画が誕生した経緯については、 昨年の会報7月号に記載致しておりますので割愛し、主旨ポスターのみ掲載致しておきますのでご覧下されば幸いです。



神戸愛山協会の結成の歴史は古く、今から93年前に遡ります。大正11年の秋、神戸の実業家・河西善兵衛氏の提唱で、当時活動していた神戸鶏鳴徒歩会の副会長であった城谷寅一氏、神戸突破嶺会会長の上田浅一氏、愛山一仙会会長・花牟礼勝熊氏、それに、登山家であった井上史郎氏（毎日新聞神戸支局）らが中心となり、共通の目的とその主旨に賛同された登山会の集結をもって結成されたのです。翌12年1月3日、再度山修法ヶ原に於いて集合挙式（現在の新年連合登山第1回目にあたる）が59団体約1000人余りの参加により举行されたとの記録が残っています。昭和9年からは5月に「山の祭」が举行されるようになり、六甲背山に誕生した数多くの登山会が横の連携と親睦を深め、益々隆盛を極めて行ったのです。しかしながら、昭和19年、戦災日増しに拡大し、新年連合登山は22回、山の祭は11回をもって休止の止む無きに至ったのです。



布引雄滝を眺めながら歩く参加者

昭和22年、敗戦による混乱した社会情勢下、市民の背山登山も全く火の消えた寂しい状態でしたが、当時の市議員で市体協会会長でもあった井上利勝氏の提唱により、

神戸愛山協会結成時の城谷、上田両氏に加え、布引山の安部八郎氏、山岳連盟の津田周二氏らが集って市民の背山への復活登山再建準備委員会が発足し、当年7月に毎日登山の復活として新たに市民山の会の名称でスタートすることになったのです。戦中戦後一時休止していた神戸愛山協会としての活動は27年より再開し、市民山の会月例会や会員の登山の安全を祈願する新年合同登山は、本年第86回目を終えたと言う次第です。



子供達も元気に参加しました！

昨年より行うようになった「山の祭」の復活版を意識しての「みどりの日を歩こう！」も各山筋登山会代表が参集し、神戸愛山協会の会議を定期的に行う中で誕生したのです。

本年は神戸市消防局様、兵庫県山岳連盟山岳連盟様に加え、神戸市公園緑化協会様、神戸市社会福祉協議会様の各団体に協賛を頂き、無事終えることが出来ました。諸団体に感謝致しますと共に、末永く続く事を願うところです。

天 候 小雨

担 当 例会委員会 神戸愛山協会役員

参加者 192名（内当会員?名）